

2.1 被害想定の対象とする地震・津波の設定

2.1.1 被害想定の対象地震

被害想定の対象地震は、香川県で影響が予想される地震として、地震発生の切迫性が高い海溝型の南海トラフ地震と香川県内に影響を与える直下型の地震を選定した。

海溝型地震は、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」の断層モデル（「南海トラフの最大クラスの地震」）及び内閣府の「南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動に関する報告」に掲載される断層モデル（「南海トラフの発生頻度の高いもの」）を採用した。南海トラフ地域は、宝永地震（1707）、安政東海・安政南海地震（1854）、昭和東南海（1944）など、100年から200年の間隔で発生しており、発生すると大きな被害が出ると予測されている。

直下型地震は、政府の地震調査研究推進本部において、全国の活断層の内の活動性が高く、社会的、経済的に大きな影響を与えるとされる断層帯のうち、主要活断層帯が明確になっており、香川県に影響を与える「中央構造線断層帯で発生する地震」と「長尾断層帯で発生する地震」を採用した。

表 2.1.1 被害想定の対象地震

タイプ	海溝型地震		直下型地震	
	南海トラフ		中央構造線 断層帯	長尾断層帯
震源域	最大クラス（L2）	発生頻度の高いもの（L1）		
地震	○(Mw9.0)	○(M8.6)	○(M8.0程度)	○(M7.3)
津波	○(Mw9.1)	○(Mw8.9)	—	—
発生頻度	千年に1度あるいはそれよりもっと低い頻度	数十年から百数十年に1度	900~1,500年に1度	3万年に1度
発生確率 (30年以内)	—	80%程度	1%以下	ほぼ0%

注：Mw：モーメントマグニチュード M：マグニチュードを示す。